

令和6年度 第1回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

- 日 時 令和6年7月3日(水) 午後6時30分～午後8時00分
○場 所 桐生商工会議所 ケービックホール
○出席者 19名

【委員】13名

委員長	群馬大学 副学長・大学院理工学府 教授	板橋 英之
副委員長	きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
委員	桐生商工会議所 会頭	靱山 和久
	桐生市農業委員会 委員	山形 栄子
	群馬県桐生みどり振興局 局長	服部 裕
	桐生信用金庫 総合企画部長兼秘書室長	増山 馨介
	桐生公共職業安定所 所長	竹内 弘佳
	(株)桐生タイムス社 事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 区長	朝倉 富美夫
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市PTA連絡協議会 会長	天川 運恵
	桐生青年会議所 理事長	新井 慎吾
	群馬大学 学生	鳥海 真歩
<欠席者>		
	桐生広域森林組合 参事	栗原 和人
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	大木 茂雄

【桐生市】6名

市長	荒木 恵司
副市長	森山 享大
<事務局>桐生市共創企画部長	西條 敦史
桐生市共創企画部企画課長	橋本 頼孝
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長	曾我 延博
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	金子 裕平

○報道関係 1社

○傍聴者 1名

○会議内容

- 1 開会 [開始:午後6時30分]
 - ・事務局から、過半数の委員の出席により会議が成立することを報告。
- 2 委嘱状の交付
 - ・荒木市長より委員へ委嘱状を交付。

3 挨拶

- ・荒木市長から挨拶。

4 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に板橋委員を選出。
- ・副委員長は委員長の指名により、近藤委員を選出。

5 議題

(1) 桐生市総合戦略推進委員会について

- ・資料1から3に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑なし

(2) 令和6年度桐生市総合戦略推進事業の概要について

- ・資料3から5に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

【基本目標1について】

委員	<p>桐生の町がどうなるかといったビジョンがある中、全体的な計画としてコンパクトシティのような、桐生の町は今後このようになるといった具体的な計画があれば市民が安心できると感じる。</p> <p>また、桐生市の資源として、自然・歴史・文化といった観光があると思う。桐生の雇用を創出するには、観光だと思うので、長期ビジョンで考えてもらえるといいと思う。</p>
市長	<p>短期的・中期的なビジョンについてお話をさせていただく。</p> <p>まずは、人口減少については、これから人口が減っていくことを視野にいれたダウンサイジングを行っていく。戦略的な減少をコンセプトにコンパクトで効率的な社会に作り替えていく。そのために将来の街の姿を描いて、それを実現するためにどのような目標を立て、そしてどこに投資をしていくのか中長期的視点に立ったプランニングを示して、各種事業を展開していくようなビジョンで進めていきたいと思っている。</p> <p>具体的には、5つ目標を立てている。1つ目は、桐生独自の教育環境の実現。他市にはないような新しい形での教育都市学園都市。2つ目は、少子化対策。3つ目は、移住定住に関する施策を引き続き行っていくこと。4つ目は、交流人口それから関係人口の増加策。5つ目は、桐生独自の地域経済の確立。小さくてもきりと光るビジネスチャンスのある町。大量生産大量消費から小ロットでもどこにもないような付加価値のものを作り上げていく。これは、桐生がこれまで築き上げたものづくり文化に根付いた気風を引き続き継承していく中、スキルの高い人たちが働きたくなるような雇用を創出できるような取り組みをしていきたい。以上5つの部分について具体的な施策として、これから事業を進めていきたいという風に考えている。</p>
委員	<p>女性就労支援事業新規事業の事業内容や背景、狙いについて教えていただきたい。</p>

事務局	雇用労働環境の充実を推進すること、やはり女性の新規就労や再就職の支援というところがメインということで講座を開いたりするというで伺っている。
委員	少子化の大きな影響として、未婚化・晩婚化があり、妊娠・出産・子育てというライフイベントの中で、収入が減ったり、キャリアがとまったりとかして、不安があるのかなと思っていて、そういった状況を受けての取り組みかなと思って確認をさせていただいた。
市長	ご意見いただいたとおり、女性の方が1度キャリアをストップし仕事を辞めた時の生涯賃金が1億から1億5000万円、働くのと働かないのでは違ってくるという具体的な数字が指摘されているところであるので、今回そういうところも踏まえて、桐生市の事業者の人たちにもご協力をいただきながらこのような実態があるので、女性の働く環境というのが非常に厳しい状況になっていることもご理解をさせていただきながら、そして現状を説明させていただきながら、取り組んでいければという風に思っている。
委員	少子化対策は色々あり、行政が予算を取ったり、職員の方が汗をかいたりして、実現できることもあるが、企業の理解と協力がないと進まない部分もあると思うので是非その辺よろしくお願ひしたい。
委員	ハローワークでは、女性就労として再就職という部分での支援を行っている。県内12所のうち前橋・高崎・太田で、マザーズハローワークという女性の再就職支援を行っている。
委員	講座だけでなく、ツアーができるといい。求人票を見た時に、自分が見たことのない業界の場合、ちょっと無理かもと思ってしまうこともあるかと思うので、その選択肢が広がるといいと思う。見たことがない現場だと、求人が出ていても踏み出せない。大人の社会科見学ではないが、介護や福祉、製造業、サービス業を見て、全体を見ることで、自分が思っていたのと違って、楽しそうに皆さん働いているなどか、ご自身の実態験でわかると選択の幅が広がる。 生活を支えるために働く中、少しでもお母さんたちも自分の夢だったり、モチベーションだったり、働いて良かったなど思えるといいなと思う。

【基本目標2について】

委員	オープンファクトリーは、移住定住も踏まえており、町の活性化、産業観光として桐生に来ていただくということもある。実際に先進地の三条だとかでは、小さい工房を見て、若い人たちが私もやりたいと言って来るということ。そういう意味では、人口拡大に貢献するという話を聞いてきた。 オープンファクトリー事業はそういう面で、地域の活性化につながっており、人口減少につながっていることをご理解いただきたい。
委員	観光とか広報に関して、桐生市の SNS が上手く学生の間でも知れ渡ってないことが多いので、群大をはじめとして学生にも、色々発信してもらえそうな仕組みづくりがあると活用されるかなというような意見がある。例えばハッシュタグや Instagram においても、何かきっかけとなる言葉を入れると、何か特典

	<p>がつくなど、そのような学生目線で楽しいと思えるような、仕組みを作っていければよりよくなるのかなと思う。</p>
委員長	<p>桐生市の出張所のようなものが大学内にあり、桐生市の職員と学生が交わる場があって、そこで桐生市のいいことを学生たちに伝え、学生たちが発信することができるのではないかなと思う。桐生市と大学がより近くなって、街の中に大学があり、大学の中に街があるという理念に一致するようなことができるのではないかなと思う。</p>

【基本目標 3 について】

委員	<p>出生数が減り、10 数年後の小中学生が減っていくことを見据えて、学校の統廃合などをしていかなければならないと感じている。人数が減っても子供のためになる、環境整備を整えるための考えていく場や勉強の場を設けていただきたい。</p> <p>また、桐生市の魅力や特色ある教育が伝わる情報提供の仕組みを作ってもらえると、多くの人が考えるきっかけになると思う。</p>
市長	<p>出生数については 是非皆様のご意見を参考にさせていただきながら各種施策に何が有効なのかを決めていきたいと思うので、またお話を聞かせていただきたいと思う。</p> <p>一方で、若者の市外流出を防ぐということが大きな課題になってくると思う。その有効な対策になるのは桐生独自の教育環境の充実だと思う。幼稚園児、小学生、中学生、高校生が 5 年後 10 年後 15 年後に桐生でどうやって活躍してもらえるか。また、教育委員会の目標が、世界に羽ばたく人材の育成としており、必ずしも桐生にとどまるということではなく、世界で活躍していただきながら、心の中ではいつもふるさと桐生のことを思っていていただく。違うところからこの桐生に対して様々な手伝い、手助け、支援をしていただくという考え方も当然出てくるかなと思う。</p> <p>そのような中、6 月 14 日に tsukurun kiryu という、デジタルクリエイティブの人材の育成の拠点が桐生駅北口にオープンした。</p> <p>また、東京池袋の ISI 学園という、学生のうちから各企業のエンジンルームの中心部に入って、デジタルを学んで卒業したらすぐ即戦力として活躍できるような人材育成をしている専門学校があり、桐生にある 6 校の高校から 1 校 1 名ずつ推薦枠をいただいた。</p> <p>さらには、角川ドワンゴ学園の R 高等学校という、来年 4 月に桐女子高校の跡地にオープンする通信制の高校ができる。こちらは定員が 2 万人で、1 年間のうちに 3 日から 4 日間がスクーリングで桐生に必ず来るのが必修になる。そうすると 1 日当たり 150 人から 200 人の方々が桐生を訪れることになるので、生徒をどのようにして桐生の方々と関係を持っていただいたり、桐生の歴史や文化、伝統に触れていただくかが大事になり、先ほどオープンファクトリーの話があったが、R 高校の生徒に桐生の工場を実際見ていただき、製造から製品になるまで、また体験をする中で桐生が持っているものを理解してもらいたいと思っている。</p>

	<p>その他に、群馬大学の学生が理科の授業を教えるサイエンスドクター事業や親子で体験する未来創生塾、職業体験イベントの子どもがつくるまちミニきりゅう、そして小学生の観光ガイドのスペシャリストを育成するジュニアアンバサダー制度。</p> <p>桐生しかない取り組みをデジタル人材の教育と連携させながら、桐生で学んだ人たちが、桐生に愛着を持っていただき、好きになっていただいて、さらには自らこの街を作っていくんだという自治意識を持っていただく、そして最終的には桐生に戻ってきていただくような人作りの土壌を作っていく。そのための5年後10年後15年後の人口流出に歯止めをかける施策として、教育をしっかり力を入れていければと思っている。</p>
--	--

【基本目標4について】

委員	<p>17ページの施策の3番、自治組織との連携強化ということで、今年度から市の職員による地域担当職員制度ができたと思うが、今どのような形で動いているか教えていただきたい。</p>
委員	<p>地域担当職員ということで、今年の4月から各区に必ず市の職員がついて、区の会議に出席いただき、今後反省会もある。職員を育てるという意味合いもあり、良い方向に進んでいると思う。</p> <p>また、小中学校の適正化中学校区検討委員会も区長がだいたい代表をしており、桐生市の将来に大きくかかわってくる問題だと思う。この問題を良い方にとらえ、桐生市の子育てについて、良い方向に進むと思う。放課後児童クラブについても、区長が運営委員長をしており、今後良い方向に進んでいくと思う。</p>
委員	<p>スポーツイベントの開催支援というところで、球都というところを伸ばしていったスポーツの街に徐々に変わっていくのかなと思う。球都桐生プロジェクトに参加させていただき、南高校跡地の野球ラボでは、他のスポーツでの使用できるということで、広く広報できるようになるといいかと思う。</p> <p>ミニきりゅうは、今年で4回目になり、子供たちの参加は増え、周りの保護者にも浸透してきたかなと感じている。将来を見据えたまちづくりというところで、地元の仕事が自分の将来に直結するというところで、進められたらと思う。</p>

【基本目標5について】

委員	<p>デジタル化の部分について、週末のイベント情報について、調べようとしても、なかなか検索できない。そういったところで、デジタル化の活用ですぐ検索できるようにすることが必要かと思う。</p> <p>また、交通基盤の整備ということで、民間タクシー等でデジタルを活用した仕組みもあるので、そういうものが充実するとよりいいと感じる。</p>
委員長	<p>デジタルを活用した移動について、桐生市と群馬大学で北中の跡地を利用して、ローカル5Gのネットワークを活用し、リモートコントロールモビリティを走らせようとリモートDXイノベーションセンターを作る。それがうまくいくと、おそらく桐生では無人のタクシーが走ることになろうかと思う。それを目指していきたいなと思っている。</p>

委員	<p>マスメディアとして、イベントの情報であったり、様々な情報を編集して届ける機能を紙でやってきたわけだが、なかなか届かないというのは痛感している。デジタルを使ったものを始めつつあるが、自社だけで一社完結で何かをやろうと思ってもやりきれない。そこで連携したネットワークの仕組みがうまく回ることによって、この街のよりよい情報発信ができると思う。</p>
----	---

(3) 「女性・若者から選ばれる桐生市検討委員会」の設置について

- ・資料6に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員長	<p>合計特殊出生率が1を切っていることは異常な状況だと思う。何が原因なのかということを委員会の方で究明していただきたい。</p>
委員	<p>桐生市人口ビジョンにおいて、男性は進学で一時的に転出超過になるが、戻ってくるという傾向があり、それに対して女性はなかなか戻らない問題がある。また、未婚率が全国や群馬県より高いという問題があり、こういったところを掘り下げていくと取り組むべき施策がクリアになるかと思う。新しく設置される組織は、取り組みの解像度を上げるための組織かと思うので、期待している。</p>
事務局	<p>人口ビジョンから深堀をしていきたいと思っている。その中でも未婚率が高いところは1つの要因ではあるかと思っているが、1をきる事態になった原因としては、今後この会議の中で検討していく。また、アンケート調査や意見交換会をする中で浮き彫りにしていけたらと考えている。</p>

(4) その他

<意見交換>

委員	<p>2点お願いさせていただきたい。</p> <p>1点目は、商工会議所の青年部で婚活を行っており、両毛5市の商工会議所全てでやっていて、どこにでも行けるようになっている。婚活も難しく、結婚まで至らないような現状がある。</p> <p>2点目は、7月30日にまちづくりに関するアメリカの成功例の講演会をしてもらう。内容としては、行政や会議所、大学、まちをよくしようと集まった人たちが力を合わせ活性化させたというもの。</p>
----	--

6 その他

- ・事務局から、次回開催日程等について事務連絡。

7 閉会 [終了：午後8時]